

校 園 名： 京 都 教 育 大 学 附 属 桃 山 中 学 校

所 在 地： 〒612-0071 京 都 市 伏 見 区 桃 山 井 伊 掃 部 東 町 16 電 話 番 号： 075-611-0264

記 載 日： 2016 年 5 月 20 日 記 載 者： 佐 々 木 稔 記 載 者 役 職： 副 校 長

貴校の校風、おおまかな特色について：



【ひろがる環(わ)】

本校は、平常の授業をより充実させ、確かな学力と豊かな人間性の育成を目指すとともに、「豊かな感性、輝く個性、広がる共生」を合い言葉に、21世紀のグローバル社会で主体的に協働的に課題解決を図ることのできる人づくりを目指しています。また、一般学級とともに、西日本の国立大学附属中学校では唯一の帰国生徒教育学級を特設し、帰国生徒の個々の課題に応じた特別な指導や帰国生徒のグローバルキャリアを生かした全校的な国際教育を推進し、その成果を地域に発信することで、学校環境の内外において進行する国際化への対応に貢献しています。多様な背景を持つ生徒たちが共に学ぶことで、お互いの違いを理解し尊重しながら、学びあい、高めあう、多文化共生につながる、寛容で優しい学校文化と風土が構築されています。隣接する附属幼稚園・附属桃山小学校とは、平成7年度より幼小中連携教育研究を、また附属桃山小学校、附属高等学校とは、平成26年度より文科省指定「英語教育強化地域拠点事業」として英語教育の連携に取組み、英語教育の高度化をめざした授業開発をおこなっています。さらに大学が主導する「グローバル人材育成のプログラム開発」にも附属学校園が連携して取組み、その実践研究の成果を全国に発信しています。

い の 違 い を 理 解 し 尊 重 し な が ら、 学 び あ い、 高 め あ う、 多 文 化 共 生 に つ な が る、 寛 容 で 優 し い 学 校 文 化 と 風 土 が 構 築 さ れ て い ま す。 隣 接 す る 附 属 幼 稚 園 ・ 附 属 桃 山 小 学 校 と は、 平 成 7 年 度 より 幼 小 中 連 携 教 育 研 究 を、 ま た 附 属 桃 山 小 学 校、 附 属 高 等 学 校 と は、 平 成 26 年 度 より 文 科 省 指 定 「 英 語 教 育 強 化 地 域 拠 点 事 業 」 と し て 英 語 教 育 の 連 携 に 取 組 み、 英 語 教 育 の 高 度 化 を め ざ し た 授 業 開 発 を お こ な っ て い ま す。 さ ら に 大 学 が 主 導 す る 「 グ ロ ー バ ル 人 材 育 成 の プ ロ グ ラ ム 開 発 」 に も 附 属 学 校 園 が 連 携 し て 取 組 み、 そ の 実 践 研 究 の 成 果 を 全 国 に 発 信 し て い ま す。



## 貴校の卒業生の活躍状況について：

具体的な追跡調査はおこなっていませんが、附属高等学校との連絡会、及び進学先の高校との中高連絡会等で、随時、卒業後の状況、大学進学状況などを把握しています。特に帰国生徒においては、例年、卒業生（大学生）を招いて、在籍する帰国生徒対象の講演会や交流会を企画しており、その都度、帰国生徒の卒業後の活躍状況を確認しています。また、3年に1回の同窓会総会、同窓会会報誌の発行がおこなわれており、同窓会役員会との連携、総会への管理職（顧問）の参加や会報誌を通して、一定の範囲で把握しています。まもなく創立70周年を迎えますが、これまで各界において京都地域、関西地区はもとより、全国的、国際的に活躍する著名な人材を多数輩出しています。

## 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

特に具体的な追跡調査はおこなっていませんが、京都府教育委員会、京都市教育委員会との交流人事における懇談会、及び研究発表会等での直接の情報交換によって、活躍状況を確認しています。本校から戻られた後は、研究主任など、学校の実践研究の推進役となって活躍している教員が多く、その後、管理職など学校経営の重責を担った教員も多く存在しています。

## 魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

本校は、京都教育大学と密接に連携し、大学教員の指導や助言を得ながら、21世紀のグローバル社会に対応できる資質、能力の育成に向けて、以下の具体的な教育課題に対して実践的に取り組んでいます。

### ①「文部科学省 英語教育強化地域推進事業 研究開発指定(平成26年度～)」

小学校英語教育の早期化・教科化に向けたカリキュラムのあり方研究として、中学校・高等学校への円滑な移行と教育内容の高度化を目指した小・中・高の12年間の英語教育をつなぐカリキュラム開発と実践研究をおこなっています。



### ②「アクティブラーニングを通じた21世紀型能力の育成」

今後求められる21世紀型能力の育成を目指して、「アクティブラーニング」の視点で授業を見直し、主体的に協働的に課題解決に向かう態度や能力の育成を目指しています。



### ③「桃山地区附属学校園（幼小中）連携研究」

幼小中の子どもたちが交流学習を通して互恵的に学ぶ連携プログラムの開発や、校種を越えた教員の連携によって、12年間の学びを有機的につなぎ、教員同士が協働して長いスパンで丁寧に継続的に指導、支援しながら「確かな学力」「豊かな社会力」の育成をおこなっています。



### ④「帰国生徒教育研究とグローバル人材育成、国際教育・多文化共生教育」

現在、西日本の国立大学附属学校で唯一の帰国生徒学級を特設し、帰国生徒教育40年の蓄積されたノウハウを駆使することで、異文化間を行き来した児童生徒やその保護者にとって、安心して個々の課題に配慮した丁寧な教育をおこなっています。また多様な文化背景やグローバルキャリアを持つ帰国生徒と一般生徒が、相互に学びあい、高めあえる、国際教育がおこなわれており、帰国生徒スピーチ発表会などのグローバルで多面的な視点で物事をとらえる教育活動が展開されています。それらの教育活動によって、本校ならではの多文化共生につながる、寛容で優しい学校文化と風土が構築されてい





ます。

#### ⑤「課題解決能力の育成を目指した総合的な学習（MET）」

本校の総合的な学習（MET）には、「国際」「環境」「福祉・健康」「生き方」に関わるテーマで約15コースからなる講座（個人選択制）が設定されており、課題解決能力の育成を目指した探究的な学習活動が多様に展開されており、思考力・判断力・表現力の育成が図られています。

#### ⑥「グローバル人材育成プログラムの開発」

京都教育大学が附属学校園と共同で進める研究の一環として、グローバル人材育成につながる授業開発と、幼小中高大とつながる系統的なカリキュラムの策定に向けた研究に取り組んでいます。

### 地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

まず、本校で学ぶ生徒自身が確かで豊かな成長を獲得し、生徒も保護者も本校で学んで良かった、学ばせて良かったと満足できる学校でなければなりません。現在、学校評価アンケートでは、9割を超える保護者が、また9割近い生徒が本校で学ぶことに関して誇りに思い、満足していますが、それに甘んじず、さらに高い満足度を質的にも追求していきたいと考えています。また、今後のグローバル社会で必要とされる資質・能力の育成を目指した教育研究をテーマに掲げて、学校を挙げて実践研究に取り組み、その教育の成果や実践方法、ノウハウを研究発表会や研究報告書の発行を通して地域に広く発信し、地域全体における教育環境の質的向上に貢献し、本校の附属学校として存在意義を示したいと考えています。以下に本校の取組を存在意義の視点から再整理して示します。

#### ①英語教育強化の先進的な実践校として

文部科学省の「英語教育強化地域推進事業」の研究開発指定（平成26年度～）を受けて、小学校英語教育の早期化・教科化をふまえた、中学校・高等学校への円滑な移行と教育内容の高度化に向けた授業開発、カリキュラムづくりに取り組んでいます。現在、京都地域をはじめ、全国の公立学校からも視察、研修の問い合わせがあり、研究発表会への参会者も多く注目されています。

#### ②次期学習指導要領を見据えた教育研究の実践校として

今後求められる21世紀型能力の育成を目指して、「アクティブラーニング」の視点で授業を見直し、主体的に協働的に課題解決に向かう態度や能力の育成をテーマに実践研究を進めています。

#### ③幼小中連携教育の実践研究校として

小中一貫教育に取り組む公立学校は多いですが、地域においては地理的な条件や構造的な制約が多く、文字通り「一貫」のカリキュラムや教員体制の整備が困難である場合が少なくありません。その場合、桃山地区附属学校園の幼小中連携による異学年、異年齢、異校種間の交流学习プログラムや校種を越えた教員の連携のあり方は、幼稚園も含めた12年間の学びを有機的につなぎ、教員同士が協働して長いスパンで丁寧に継続的に指導、支援するという点で、公立学校における、連携教育、一貫教育への有効な手がかりとなる実践研究となっています。

#### ④帰国・外国人生徒教育のノウハウを生かした地域との連携と貢献

帰国・外国人生徒教育40年の蓄積されたノウハウを生かして、異文化間を行き来した児童生徒やその保護者にとって、安心して個々の課題に配慮した丁寧な教育をおこなっています。また多様な背景やグローバルキャリアを持つ帰国生徒と一般生徒がお互いを理解し尊重し、相互に学びあい、高めあえる学校文化が構築されています。これらは、公立学校における外国人生徒教育の課題とも共通する部分が多く、本校が事務局を務めるネットワーク「渡日・帰国青少年（児童生徒）のための京都連絡会」を通して、京都府教委、京都市教委、京都教育大学の後援をうけて、公立学校の教員やボランティア、支援団体などと連携して、セミナーや多言語ガイダンス等を開催し、京都地域の外国人児童生徒の教育環境の改善に本校がその拠点校として貢献しています。

## ⑤ユニークな学習形態で取り組む総合的な学習（MET）

本校の総合的な学習（MET）では約 15 コースからなる講座（個人選択）が設定されており、課題解決能力の育成を目指した探究的な学習活動が多様に展開されています。少人数の講座選択制の学習形態は、本校ならではの独自のユニークな学習として公立学校からも注目されています。

## ⑥京都教育大学との連携

京都教育大学と連携し、大学教員の指導や助言を得ながら、より良い授業づくりを追究している学校として、また、生徒が直接、大学教員による授業を受けられる等の教員養成大学の附属学校としてのメリットを最大限に生かしています。

## 附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

### ◎教員養成の視点から

本校が、教員養成大学に学ぶ、多くの学生の実習生受入れ校として、単に教員免許取得における履修上での必要な機関として位置づけられたものではないことは言うまでもありません。あくまでも本校は、今後の 21 世紀社会、グローバル社会を担う人づくり、そしてその重責を担う教育者としての教員養成を目指して、「教育の総合大学」としての理念を掲げる本学と有機的に連携し、協働で、理論と実践をつなぎ、未来の教員づくりを「チーム」として担うプロ集団としての附属学校であると考えています。本学と附属学校は切り離すことのできない、一体の教員養成機関として、今後も必要とされる存在であると考えています。

### ◎研究推進の視点から

附属学校である本校は、研究推進においても大学教員と密接に連携し、地域全体の教育力や教育環境の質的向上のために、時代の潮流を見極め、地域に求められる教育課題に対応した研究実践を率先して推進し、その成果を広く発信していく存在でなければなりません。そして、その研究実践は、教育の専門家を擁する京都教育大学とつながる附属学校ならではの研究であること、また隣接する附属桃山地区学校園ならではの研究であること、長年の蓄積されたノウハウが生かされた本校独自の教育研究であることが重要であり、かつ地域に広く貢献し、具体的に還元されるものでなければならないと考えています。以下の実践研究と取り組みは、このような視点で進められているものです。あらためて再掲します。

- ・文科省「英語教育強化地域拠点事業」の研究開発指定による先進的なカリキュラム開発
- ・21 世紀型能力の獲得のための、アクティブラーニングを通じた授業の見直し、再構成、新たな評価方法の実践研究
- ・過去 20 年余りに渡って取り組んできた「幼小中連携教育」の深化・発展と成果の継続的な発信
- ・総合的な学習（MET）による、本校独自の探究学習
- ・西日本の国立大学附属中学校として唯一帰国生徒教育学級の特設と帰国生徒を核とした国際教育・多文化共生教育の推進。京都地域とつながる支援ネットワークづくりと運営

### ◎最後に

これまで以上に、大学が主体となって附属学校と密接に連携し、同時に附属学校園も「チーム」として一体となり、それぞれの附属学校園の独自性と強みを生かし、かつ補完し合いながら、京都教育大学ならではの特色ある研究実践や教員研修を統合的な研究テーマで束ねて協働で推進していくことが重要だと考えています。その中で教員一人ひとりが教育力を高め、公立学校との人事交流も含めて、多様な形や場面で地域の教育力の向上にダイレクトに還元、貢献していくことこそが、京都教育大学と附属学校の存在を、説得力を持って地域に知らしめていくことだと確信しています。